

写真集『まちかど写真館 in ひの』第二集販売中

4月11日(水) 付け読売新聞朝刊に、写真集『まちかど写真館 in ひの』第二集が刊行された旨の記事が掲載されました。実は、前日の火曜日の午後、取材に訪れた十河記者でしたが、この写真集刊行の経緯や日野宿発見隊の話にとっても熱心に聞いてくれてはいましたが、まさか翌日早速掲載してもらえるとはいませんでした。

3年前に第一集が出た時は、名古屋から転勤したばかりという熱心な東京新聞の記者が取り上げてくれましたが、新聞社によってはまったく興味を示さない社もあり、むずかしいものです。しかし新聞の影響は大きいものです。朝からひっきりなしに問い合わせがきました。特に、みなさん様に第一集は手に入らないのかとのお尋ねでした。こちらとしては出したいのは山々なのですが……。



「うおーくらりー in 日野宿 (第41弾)」開催

5月13日(日)、「うおーくらりー in 日野宿」を開催しました。この日は朝から好天に恵まれ、10か所のポイントに用意した特製スタンプを集めながら、日野宿の新たな一面を発見していただけたのではないのでしょうか。



デザイン：谷享司

製作：井上典子・入野・石嶋

(観光協会スタンプを除く)

なおこの日、メイン会場の市役所近辺では爆破騒ぎがあったそうです。みんなが楽しみにしていたイベントを台無しにした犯人には憤りを感じます。

ところで今回はゴールを、竣工して間もないということで宣伝の意味もこめ、ふれあいホールとしたのですが、宿内から少々離れてしまいラリーに参加された方にとっては負担があったようです。来年は宿内にゴールを設けたいと考えています。



受付のギャラリー&カフェ大屋前
：受付班 木村・松元・高橋親子



坂下地藏堂：入野さん



とんがらし地藏前：松本保さん



外国人のお客様も
大型判子にびっくり



東の地藏：無人
誰もいないとさびしい



噂の特製クッキー

「日野の用水であそぼう！」（第42弾）

第5回日野宿子ども発見隊「日野の用水であそぼう」を開催しました。

開催日	7月28日（土）	午前9時30分-12時
会場	新東光寺地区センター前の日野用水と田んぼにて	
参加者	子ども14名 保護者6名 スタッフ12名 計32名	
講師	鶴田大三郎さん 谷享司さん 井上博司さん	

昨年とは打って変わって、今年はこのところ連日猛暑続きで、熱射病の心配もありましたが、幸い用水沿いの桜並木のおかげで、水のなかはけっこう気持ちよく助かりました。（田んぼに出た井上班はけっこう暑かったようですが……。）



今年も講師に鶴田大三郎さん、谷享司さん、井上博司さんの三人をお願いしていたのですが、井上さんが予定時間になっても到着せず気をもみました。実は井上さん、この日も朝早くから、子どもたちに見せようと釣りに出かけていたようで、ちょっと夢中になりすぎてつい遅れてしまったとのこと。残念ながら今回はモクズガニのお土産はありませんでした。

そんなハプニングもありましたが、何とか3班に分かれて田んぼや用水にむかい早速獲物探しにかかりました。



講師のひとり、谷さんは発見隊メンバーの若手、加藤さんとふたり、下流側に大網を構え、子どもたちに上流から魚を追い込ませました。すると、ほどなくして、大きいのは15センチほどの？をはじめカワムツ、タモロコ、カマツカ、フナ、ドジョウなどかなりの魚を取ることができました。

冷たいオレンジを食べながら図書館の中島さん（今年4月から日野図書館担当になりました）から生き物関係の本を紹介してもらいました。3年生の参加が多かったので、絵本『ひのっ子日野宿発見』も紹介しました。

今年は申込が始まると同時に、昨年参加して面白かったのが今回も是非参加したいという子どもたちが多数いて、事務局としてはとてもうれしい限りです。



1年にいっぺんの取り組みですが、せっかく自然が残る私たちのまちです。それも用水は日野の宝でもあります。これからも継続していきたいものです。と同時に、講師の谷さんや井上さんのように、今でも子どものように自然のなかで戯れるのが大好きな大人たちのささやかな楽しみとして、「日野の用水であそぼう！」は大切なイベントでもありますからやめられません……。

看板製作再開

8月9日（木）、日野宿本陣文書検討会の看板が完成しました。依頼を受けてから大分わかりました。ちょうどこの看板ができあがったところで、北原のとんがらし地蔵の扁額製作の依頼が入りました。10月には新お堂が完成予定のため、それまでに作って欲しいとのことです。



日野宿夏祭り（第43弾）

8月25日（土）、午後3時から日野宿交流館駐車場にて日野宿夏祭りを開催しました。このところの猛暑でご協力いただいた皆さんにはかなりご負担をおかけしましたが、事故もなく無事終了することができました。

第一部のふれあい子ども横丁では、今回、下町下河原自治会のご厚意で、子ども神輿を

お貸しいただき、祭り好きの子どもが早速神輿を担いで巡行に出発。これを皮切りに、各ブースで「水鉄砲工作」「色紙をはって作るトレー工作」「紙飛行機工作やしゃぼんだま」「ブーメラン工作」「どんぐりととろ工作」「ベーゴマ遊び」の各ブースに分かれて楽しみました。なお、竹馬やこまなどに挑戦するお母さんの姿も見受けられました。元バスケットをやっていたというお母さん、かなり高い竹馬を乗りこなしているのには驚きでした。



続いて、第二部の夕涼み会では、まず日野囃子保存会によるお囃子の演奏で始まりまし
た。今回は日野ふれあい商店会からお借りしたすばらしい男女一対の武者絵(?)を演台
の後ろに飾らせていただきました。おかげでお囃子の皆さんの演奏や踊りを一段と引き立
ててくれました。



日野囃子保存会



手作り灯籠のほのかな灯

スタート時は、まだ日が陰らず昨年よりも明るく感じましたが、7時近くになってようや
く会場もほの暗くなり、各テーブルにセットされた手作り灯籠のほのかな灯りがいい感じ
となりました。(製作担当の事務局としても満足!)

引き続き、恒例の映写会となりましたが、今回は、今年6月に亡くなった地井武雄さん
を悼んで、日野宿発見隊が登場する映像の特別上映をしました。

4年前の映像でしたが、会場の松本保さんや前日野図書館長の渡辺さんから、撮影時の地
井さんの思い出などを話していただき故人を偲びました。

それにしても地井さんの死は残念でした。心よりご冥福を祈ります。

その後、7時30分過ぎまで、ふれあい商店会の皆さんによる特製カレーや焼きそばなど食べていただきながら、地元の古い写真や映像を見ていただきました。

台風の影響を受けて開催が危ぶまれた第一回目のふれあい子ども横丁や、雨のために交流館の3階でやむなく開催となった第二回目の夕涼み会など、毎回いろいろありますが、こうして地域の皆さんに喜んでいただけるのは、開催に関わるスタッフにとって大変うれしいことです。

スタッフ側の高齢化(?)はますます進む一方ですが、何とか来年も開催したいです!

JCNテレビ「林家たけ平のぷちウォーキング」

8月、JCNテレビ「林家たけ平のぷちウォーキング 日野駅周辺の水辺を散策」で、まちかど写真館で展示中の写真がいくつか紹介されました。

林家たけ平氏が辿るウォーキングのコースに展示されていた写真、

- (1) 日野駅ガード脇に展示したトラック横転事故の写真
- (2) 日野煉瓦解説板と2枚の写真
- (3) 多摩川鉄橋近くにある水遊びの写真

がとりあげられました。



日野駅ガード脇に展示したトラック横転事故

昭和27(1952)年



日野煉瓦解説板



(1)

(2) 八丁たんぼ 昭和12(1937)年



日野駅西 昭和27(1952)年

まちの中を流れる用水とともに、まちのいたるところに展示されているこうした写真に、林家たけ平氏もとても感心されていました。



多摩川鉄橋近くにある水遊び
昭和 30 年前後

八坂の祭り写真展（第 44 弾）

平成 24(2012)年 9 月 1 日（土）から 9 月いっぱい、八坂神社の玉垣に 23 点と南側のフェンスに 3 点、さらに竹間宅のフェンスに 5 点を展示させていただきました。

なお、同時に森町の消防小屋の甲州街道沿いの壁に 8 点、常設のパネルを展示。

さらに八坂神社の南側に常設パネルを 1 枚追加しました。

昨年は震災のため宮神輿の渡御が中止されたため、今年は氏子の皆さんの思いもひとしおではないでしょうか。



玉垣



竹間宅前



神社裏にも 3 点展示

用水を清掃しよう！（第45弾）

10月20日（土）、午前9時から1時間ほど、用水を清掃しました。今年は、いつもの日野駅そばの用水ではなく一小の北側で行いました。参加者は5名。加地代表も今年はウェアを準備しての参加でした。

まずは、用水の様子を観察。今年も旧大門橋付近の用水には落ちアユの姿もみられ、気持ちよくスタート。先日の降雨のためか、水量も多く流れも結構ありました。油断すると足を取られてしまいます。



側溝の方がどろがたまっていました。

このあと、親水広場に場所を変えると、なんと油のかすが一面にたまっているではありませんか。上流のどこかで、心ないやからが流したのでしょうか、まったく憤りを感じます。

1時間ほどで7袋ほど、あまりうれしくない収穫物でした。



新お堂に安置された「とんがらし地蔵尊」

10月20日（土）、午後1時から、この度完成した新お堂に「とんがらし地蔵尊」を安置し、欣浄寺の工藤住職ならびにご子息により入仏式の法要が営まれました。

天気にも恵まれ、松本保さんをはじめとする講中の皆さん、建設に関わった谷工務店の谷さん、新興鉄工所の馬場さん、そして扁額製作を請け負った日野宿発見隊の加地代表等が見守るなか、無事法要が執り行われました。

谷享司さん製作の扁額がお堂によく収まってい





ます。皆さんに大変喜んでいただけたようです。塗装を担当した者にとってもとても晴れやかな一日でした。

一中道徳授業公開講座に講師派遣

10月27日(土)、日野一中道徳授業公開講座に日野宿発見隊から10名講師として出席しました。

3年生5クラスに2名ずつ、以下のメンバーで訪問しました。(敬称略)

1組：井上博司・森山研一 2組：谷享司・木村まゆみ 3組：猪鼻洋助・小池亮一

4組：河野喜映・安西清 5組：曾我眞一・河野和正

安西さんは体調不良のところを無理して参加していただいたとのこと。同時開催の「いのちのミュージアム」の展示も担当されており、本当に頭が下がります。また、河野和正さんには初めてご協力をいただきました。



引き続き、日野市郷土資料館の北村澄江さん（日野宿発見隊）から、先に刊行された『日野市旧桑田村の地名』（日野の昭和史を綴る会／編・発行）を中心にお話していただきました。明治期の約10年間だけ存在したという桑田村について、北村さんたち日野の昭和史を綴る会のメンバーが足掛け10年をかけ地道に調査したその集大成として自主刊行されたという同書は貴重な資料となることでしょう。

なお、北村さんも中学3年生の11月に転校し4か月ほど一中にお世話になったとのこと。短い期間ではあったものの今でも同級生とのお付き合いが続いているそうです。

講師からの一言感想

- ・用意したプレゼンテーション用の写真が、昭和30年代生まれの自分には古すぎた！
- ・担任の話が後半の自分たちの話への導入としてうまくかみあえばよかったのだが。
- ・昨年担任自身の郷土への思いを語ってもらうようになったが、今回はかなり熱心に語る姿が見えた。

日野駅周辺みどころガイドツアーに協力（第46弾）

11月23日（金）開催された日野駅周辺みどころガイドツアー「地蔵・石仏コース」に、日野宿発見隊の加地さんと北村さんがガイドとして協力しました。

生憎の雨模様で、参加者も11名と少人数でしたが、かえってガイドの解説もよく聞き取れ、モミジやイチョウの紅葉を愛でながら、日野宿の秋をゆっくり楽しんでもらいました。

なお参加者には、加地さん編集のお地蔵さんに関する資料と、日野宿発見隊事務局から特製カードと「ひのまちなぞQ」をお持ち帰りいただきました。



米倉宅前のお地蔵さま



とんがらし地蔵堂

小学校への支援（番外編）

平成25(2013)年2月7日(木)の2校時、事務局の石嶋と猪鼻さんとで、七小の3年生3クラス向けに、半世紀前の写真や映像を使って、日野の昔を紹介する出前授業に行ってきました。猪鼻さんに適宜補足をしてもらいながらの約40分弱、あっという間に過ぎてしまいました。授業の最後に子どもたちから質問を受けたのですが、細かい点をしっかり見てくれていたので、こちらも驚く内容でした。

2月26日(火)、この授業を受けての疑問や感想を記した子どもたちの文集が届きました。なるほど子どもたちの反応は実に面白い。そのなかから、いくつか紹介したいと思います。

- ・多摩川にかかる鉄橋に日野で造られたレンガが使われていたのに驚いた。
- ・昔は(オート)三輪車があったのか。
- ・なぜ昔の体育の時間は男と女に分かれてやっていたの？
- ・昔の家はわらの屋根だったのか。
- ・昔は水泳パンツじゃなくて、ふんどしをつかっていたんだ。
- ・日野駅が昔と今と同じだった。
- ・昔オリンピックが日本であったのか。日野の町のなかを聖火リレーが走ったんだ。

今回は3年生の昔しらべの一環として招かれたものですが、昔があるから今がある。その昔を熱心に調べる子どもたちの姿を見るととてもうれしくなります。猪鼻さんにも子どもたちからの文集が送られてきましたが、実は授業でも触れたのですが、猪鼻さんのお父さんは今年99才。来年100才を迎えます。子どもたちもこれにはとても驚いたようです。日野の歴史を語り続ける一人として、この子どもたちにも是非健やかに成長してもらいたいものです。

野草を食べよう（第47弾）

4月1日(月)午前9時より、3年ぶりに日野宿子ども発見隊「野草を食べよう！」を開催しました。天気にも恵まれ、参加者は子ども6人、大人11人、計16人でした。谷仲山地区センターで近所の人飛び入りもありました。ガイドは今回も谷享司さんにお願ひしました。



谷享司さんのレクチャー



日野図書館を出発し早々、なんと図書館の目の前で竹の子を見つけるや、子どもたちが早速竹の子掘りにかかりました。生憎スコップがなかったもので、近くの猪鼻輪業からスコップをお借りして、漸く掘り出すことができました。

この後、森山種苗脇でハコベを観察した後、道々草花を見ながら、カトリア付近から多摩川の河川敷に降り立ち、いざ野草摘みに。

ノビル、ヨモギ、カラスノエンドウ、カンゾウ、タンポポと摘みながら立日橋付近に向かって進みました。特に子どもたちにとってはノビルを探るのが面白いらしく、あっという間に袋いっぱいになってしまいました。

この後場所を変え、ツクシを採りに。ほとんどツクシは孢子が飛んでいましたが、それでも建物の裏手には食べられそうなものがあり、1才半の幼児もお母さんといっしょに楽しそうに摘んでいました。



この後、谷仲山地区センターに移り、センター前で早速料理の下ごしらえにかかりました。子どもたちは今回も谷和彦さんのお宅に自家製シイタケを収穫に。



谷さんが揚げる天ぷらや北村さんがゆでてくれた野草を、子どもたちは次から次へとおかわりしていました。新鮮で揚げたてとくれば当然かもしれません。子どもたちがこんなに喜んでくれたのには驚きです。大人でもこうして春の野で自ら摘んだ野草を食べるなど皆無に近くなった現在、子どもたちには楽しい思い出ができたのではないのでしょうか。

なお当日は日野ケーブルテレビの取材も入りました。